

## 令和4年度 特別の教育課程の編成の方針について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立三笠小学校（外 11校）	鹿嶋市教育委員会	公立

### 1. 特別の教育課程を開始又は変更した年度（特例の適用開始日）

2007年4月

2018年4月 変更

\* 取組の期間

2030年4月まで

### 2. 特別の教育課程の概要、特別の教育課程を編成する際の各教科等の授業時数

急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実が我が国にとって、極めて重要な問題であり、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際、国際共通語である英語力の向上は日本の社会にとって不可欠である。これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

### 3. 地域や学校の特色とその特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

#### 4. 実施の効果、課題および方向性

##### (1) 特別の教育課程の編成・実施の効果と手立て

###### 【効果】

ALTが、レッスンプランだけでなく、児童が楽しめるクイズやゲームの作成に取り組んでいる。

ワークシートを活用して、会話を通して学ぶ活動を行っている。

###### 【課題】

授業に対して参加できない・しない児童が一定数いる。

学習した内容や学習状況について、児童だけでなく保護者にも周知を図るようになる。

パフォーマンステストの様子を見ると、テストの前の授業時間などに練習時間をとっても練習量が不十分であった。自主的に練習する姿勢もあまり見られず、テストの結果も向上していない。

即興性がなく、話題が深まらない。スモールトークの時間を1分間与えても活動が充実しない。分からないことを聞かない等学習に対してどうすれば自分ができるようになりたいという意欲をさらに高めたい。

6年生が受験したGTEC Juniorでは、昨年度に比べて全体のジュニアグレードが3から4へ改善されている。しかし、本校では、「聞く力」の「会話での質問の答えがわかる」の部分の正答率は47.1%と半分に満たなかった。

##### (2) 課題の改善のための取組の方向性

低学年の児童が外国語活動に意欲的に参加できるように、英語専科教員やALTだけでなく、学級担任や他の先生方の協力を得ながら複数の目によるサポート体制を整える。また、児童の学習内容の理解が深まるように、自己紹介やTPRを毎時間行い、定着を行う。各学校のホームページを活用して、年間の学習計画や授業での様子などを紹介し、保護者に理解してもらえる手立てを行う。

テスト前にパフォーマンステストを実施し、児童にAの評価とBの評価の違いについて提示し、自分でレベルを選択させる。また、3～4年生では、非言語（ジェスチャー、アイコンタクト、クリアボイス）等に積極的に取り組ませていく。

6年生は中学生になっても自信をもって英語学習に取り組んでいくことができるように、教科書だけでなく、navimaやEnglish 4 skillsの問題を活用するなどして多様な問題を行い、4技能の向上を目指していく。